

花草木

【ササユリ】

ササユリ（笹百合、学名：Lilium japonicum）は、ユリ科ユリ属の球根植物で、気品に満ちた淡いピンク色の花を咲かせる日本特産のユリです。

地域によっては、ヤマユリと呼ぶこともあり、山や森林によく自生しています。ササユリの名前の由来は笹のような細長い葉をもつことからきています。草丈は大きいもので1mほどで、球根から花をつけるまで数年かかります。そのため、近年数を減らしている珍しい植物でもあります。

ササユリは6～7月にかけて、長さ10～15cmほどの淡いピンク色の花を咲かせます。ユリ特有の反り返った花は、美しく花の大きさ以上に存在感があります。

ササユリの花言葉は「清浄」「上品」「純潔」です。



美の森 眞面国有林で咲いていたササユリの花

我が署のスタッフ 滋賀森林管理署

高橋 正海（たかはし まさみ）（令和6年度採用）

【現在取り組んでいる仕事は？】

総務グループの経理担当になり2年目を迎えました。

日々の業務では、支払書類の内容確認と処理、事務用品の在庫管理と発注対応、職員の旅費精算、庁舎設備の整備などを担当しています。

また、知識と視野を広げ、幅広い業務に対応できる力を身に付けるために、他グループの現場業務にも積極的に同行して技術を学んでいます。

【職場の雰囲気は？】

職員全員がそれぞれの業務に責任感をもって取り組んでおり、グループを問わず話しかけやすい雰囲気があるため相談がしやすく、連携して業務をスムーズに進めることができる職場です。

【林野庁の魅力は？】

事務仕事で溜まったストレスを現場業務で思いっきり体を動かして解放することができます。

普段の経理業務では市民対応をすることが少ないため、国有林に関する問合せや倒木処理の対応などで感謝された時は達成感があります。



事務所内で執務の様子（手前が本人です）

森林事務所等紹介

大津森林事務所（滋賀森林管理署）

首席森林官 増成 直樹（ますなり なおき）

地域技術官 武部 広（たけべ ひろし）

大津森林事務所は、滋賀県南西部の大津市・甲賀市の一部及び栗東市を管轄区域とし、国有林 16 団地 約 4.3 千 ha を管理しています。住宅や寺院に隣接する都市近郊林が多く、地域から様々なご意見を頂くことがあります。



自然休養林内の名勝「天狗岩」



天狗岩からの眺望（自然休養林と新名神高速道路）

また一方で、東海自然歩道や国宝に指定が答申された琵琶湖疎水が通過し、ハイキングを楽しむなど、入込者が多い国有林もたくさんあります。中でも特に魅力的な自然景観を有しているとして「日本美しの森お薦め国有林」に選定された「近江湖南アルプス自然休養林」（大津市、栗東市）は、特に入込者が多い国有林です。

この国有林では、安全・安心して楽しんでいただくため、遊歩道、案内板などの点検や景観を損なう木の処理を



遊歩道水晶谷線から大津・草津市内と琵琶湖・比叡山

行うなど、当該自然休養林運営協議会や関係者のみなさまの協力を得て、適切な管理に努めています。

訪れていた人に話を聞くと、ここの山はとも変化に富んでいて、何度登っても飽きないとのことで、植物観察もされていました。

^{まがいぶつ}摩崖仏^{*}や変化にとんだ巨大な奇岩が多数あり、琵琶湖対岸の比叡山や比良山系が一望できる所もあり、植物種も多く魅力的な山です。

それから、今では想像できませんが、こ

の一带から藤原京（奈良県橿原市）など都の造営のために大量の木材が搬出され、江戸時代には「田上の禿（はげ）」と言われ、大水害も発生していました。その頃から植栽が進められ、明治以降は政府が招いたオランダ人土木技師のヨハネス・デ・レーケの指導で施工されたとされるオランダ堰堤や石積の山腹工など、先人の苦労が偲ばれる治山施設などが、ひっそりと佇んでいます。これらにより、今日では豊かな緑が蘇っています。

軽装では危険な箇所もあるので、足元などしっかりとした装備で、この自然休養林をみなさまに満喫していただくと幸いです。

※摩崖仏（まがいぶつ）：自然の岸壁や崖に仏像を彫刻したもの

シリーズ『国有林 最前線！』

クロマツとアカマツのおりなす「気比の松原」

福井森林管理署



地元小学生による松葉かきの様子（松原国有林）



集めた松葉を集積車に運搬する様子（松原国有林）

福井森林管理署で管理している松原^{まつばら}国有林（敦賀市）は、静岡県「三保の松原」、佐賀県「虹の松原」と並ぶ日本三大松原「気比^{けひ}の松原」と呼ばれ、昭和9年に国の名勝に指定されているほか、日本の白砂青松100選、日本の名松100選などにも選ばれる松の名所として、古くから人々の憩いの場として親しまれてきました。

約32haの林内には樹齢200年を超えるクロマツやアカマツなどの松林が広がっており、海岸防災林として敦賀市の市街地を潮害等から守り、また、地元の児童及び生徒に松葉かき※を体験してもらうなど、森林環境教育のフィールドとしての役割も担っています。

近年では松くい虫による松枯れの被害が発生しており、被害木の伐採や破砕処理、また薬剤の地上散布により松くい虫の駆除、被害を事前に防ぐため松に直接薬剤を入れる樹幹注入、マツの土壌となる砂の流失を防ぐ養浜工などの防災林造成事業などを実施することにより、松林を保全育成しています。

福井森林管理署では、有識者、市民団体、地元行政と連携して、これからの気比の松原の姿について検討し、これを「気比の松原100年構想」としてとりまとめ、整備管理基本方針として「クロマツとアカマツのおりなす“白砂青松”の再生」を掲げ、松林の整備を進めています。

今後も各種事業、活動の実施を通じて貴重な松林を守り、次世代に繋げていく取組を進めてまいります。

※松葉かきとは、健全な松林を育てることを目的としたもので、林内に堆積した松葉を取り除くことにより、松の生育に適した貧栄養状態の土壌を維持する作業のことです。



砂の流出を防ぐ養浜工（松原国有林）



松くい虫防除の薬剤地上散布（松原国有林）